

**航空事故調査報告書**  
**日本航空株式会社所属**  
**ボーイング式747-400型 J A 8 0 8 5**  
**太平洋上空**  
**平成7年12月13日**

平成8年2月1日  
航空事故調査委員会議決  
委員長 竹内和之  
委員 小林哲一  
委員 川井力  
委員 東口實  
委員 相原康彦

## 1 航空事故調査の経過

### 1.1 航空事故の概要

日本航空株式会社所属ボーイング式747-400型JA8085は、平成7年12月13日04時56分（協定世界時1995年12月12日19時56分）、同社定期001便としてサンフランシスコ国際空港を離陸し新東京国際空港に向け飛行中、平成7年12月13日14時00分ごろ、北緯38度、東経146度付近（仙台の東約420kmの太平洋上空）において、乗客1名が機内で死亡した。

### 1.2 航空事故調査の概要

#### 1.2.1 調査組織

航空事故調査委員会は、平成7年12月13日、本事故の調査を担当する主管調査官を指名した。

#### 1.2.2 調査の実施時期

平成7年12月18日及び22日 事実調査

### 1.2.3 原因関係者からの意見聴取

意見聴取を行った。

## 2 認定した事実

J A 8 0 8 5 は、平成7年12月13日04時56分（協定世界時1995年12月12日19時56分）、同社定期001便として乗組員19名及び乗客343名、計362名が搭乗し、新東京国際空港に向けてサンフランシスコ国際空港を離陸した。

同機が新東京国際空港に向けて飛行中、09時35分ごろ、修学旅行中の男性乗客1名（17歳）が、軽い喘息の発作を起こしたため、修学旅行に同行した看護婦の指示に従い、航空機に搭載している酸素ボンベにより酸素吸入を施していた。13時30分ごろ、本人の意志により化粧室を使用中、13時50分ごろ、化粧室内にて痙攣を起こし意識不明となったため、同行した看護婦及び客室乗務員3名が心肺蘇生及び酸素吸入の処置を施したが死亡した。

同機は、14時58分に新東京国際空港に着陸した。

同機の着陸後、検死を担当した医師によれば、同乗客は気管支喘息発作により14時00分ごろ死亡したとのことであった。

同行した看護婦によれば、死亡した乗客は、以前から気管支喘息の持病があったが、旅行前に学校内の健康診断を受診し、旅行には支障ないということであった。

また、機長によれば、14時00分ごろの同機の飛行位置は北緯38度、東経146度付近（仙台の東約420kmの太平洋上空）で高度39,000ftであったが、飛行中、同機には異常はなかったとのことであった。

## 3 原因

本事故は、飛行中、航空機内で旅客が気管支喘息発作をおこし、死亡したものと認められる。